

## 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

### (1) 教職課程委員会における検討

本学の教職課程委員会の歴史は古く、旧3学部体制、家政学部・文学部・短期大学部の時代である1976年4月に設置されていた。運営規則が制定されたのは、1979年11月となっている。各学部ごとに教職課程の運営責任者が置かれた責任体制の下に、大学の教職課程が運営されている。

2014年3月～2014年10月の間、教職課程委員会の中に教職支援強化のためのワーキンググループを設置し、教職をめざす学生のために大学全体あるいは各学部ごとに実施している学生支援の現状と課題について分析検討を行った。教員採用試験対策や教職の実践的指導のために開設されている教育学部附置の教職サポートルームは、2013年度から教育学部以外の教職を目指す学生についても支援を拡大している。

### (2) 教育委員会及び地域との連携

教育委員会と大学との協定は、愛知県日進市と名古屋市との間に協定が結ばれている。日進市については、日進キャンパスにある臨床心理相談室が、日進市の公立小中学校に通う児童生徒と保護者の相談、および教員への教育指導面接を行っている。また、大学教員（臨床心理士・精神科医）が、小中学校に特別支援のための巡回指導に出かけている。また、日進市サポーターとして、学部生・大学院生など数名が特別支援教育に関わるボランティアとして、日進市の公立小学校に参加している。

名古屋市教育委員会とは、教育委員会が学生募集を行ったふれあいフレンド事業・トワイライトスクール事業・理科支援員事業、なごや教師養成塾、2015年度から始まったなごや教職インターンシップ等に応募奨励・希望者の斡旋を行っている。

また、2014年度に開設した大学院教育学研究科のカリキュラムとして開設されている長期教育実習科目、教職インターンシップにおいては、教職の実践指導に関して名古屋市との包括協定のもとに、教育委員会の助言を得ながら、より高度な教師養成について質の向上への努力を行っている。

### (3) 教職インターンシップ・学校ボランティア等

教育学部においては、2007年度の学部創設以来、学部の科目として教育ボランティア・福祉ボランティアといった科目を開設、学生への指導を行うとともに、単位認定とは別に、教職のインターンシップとして、学校や保育・児童福祉領域へのボランティア参加を奨励している。2013年度から教育学部以外の教職を目指す学生のうち、希望者には科目の担当者が指導助言を行っているが、大学全体としての公式な学生支援体制は確立していない。

上記のように大学院教育学研究科では、既設の教育学研究科でありながら、ストレートマスターに対し、教職インターンシップ科目や教職実践研究科目を開設し、教育現場に密着した教師教育の質向上に対する努力を行っている。

表1 ボランティア科目群への登録状況

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
教育ボランティア	83	120	50	59	16	55	24	59	67	65
福祉ボランティア	10	70	108	50	20	11	6	14	17	18
ふれあい実習Ⅱ *1	37	25	16	6	19	7	56	112	205	146
授業登録なし					167	178	192	97	371	240
延べ人数	130	215	174	115	222	251	278	282	660	455

\*1 2012年度までは附属小学校でのボランティア活動、2013年度からボランティアの基礎を学ぶ講義

表2 ボランティア先の内訳（延べ数）

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016
幼稚園	36	97	80	67	229(*2)	175
保育園・こども園 *3	20	25	18	23	157(112)	95(73)
子育て支援事業	65	15	20	9	16	26
小学校 *4	80(33)	49(23)	69(33)	30(13)	83(48)	113(61)
放課後支援事業 *5	60(54)	51(44)	63(56)	62(52)	58(41)	62(56)
中学校	6	6	2	9	7	12
養護学校	1	1	2	2	6	1
子どもキャンプ	86	78	36	57	99	82
その他	3	12	7	14	10	19
なごや教職インターンシップ					52(*6)	37(*7)

\*2 内訳は名古屋市48名、椋山女学園附属幼稚園101名

\*3 ( )内は椋山女学園附属保育園

\*4 ( )内は名古屋市立小学校でのボランティア

\*5 ( )内は名古屋市立小学校のトワイライト

\*6 内訳は、教育学部47名、生活科学部生活環境デザイン学科2名、現代マネジメント学部2名、教育学研究科1名である。また学年は、2年生13名、3年生38名、修士課程2年生1名となっている。

\*7 内訳は、国際言語コミュニケーション学科1名、表現文化学科2名、人間関係学科1名、教育学部33名となっている。